

平成29年12月1日号(No.182)

「 憎しみより愛を 」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

第69回全国人権週間が、12月4日から1週間始まります。人権問題では、米国で8月12日、バージニア州のシャーロットビルで、リー将軍の銅像の撤去計画への抗議集会のために集まった白人至上主義者やネオナチの支持者らと反対派の間で激しい衝突が起きました。これは、黒人などに対する差別が米国社会に根深く残っていることが窺える事件でした。この事件に対して、すぐにオバマ元大統領は、南アフリカの故マンデラ大統領の言葉を引用してコメントを出しました。それは、以下のような言葉です。



生まれた時から肌の色や出自や信仰のちがう他人を憎む人間などいない。
人は憎むことを学ぶのだ。もし憎むことを学べるのなら、愛を教えることもできる。

愛は憎しみよりももっと自然に人の心に生まれるはずだ。

ネルソン・マンデラ

この言葉はマンデラ氏の自叙伝「自由への長い道」から引用したものです。

マンデラ氏が言うように、憎しみや偏見、差別は周りから教え込まれるのだと思います。その周りの人もいつか誰からか教え込まれているに違いありません。そうやって憎悪や偏見や差別は連鎖していくのだと思います。まずは、正しい知識をもつことです。しかし、「差別や偏見はいけない」と言うだけではなかなか解決しないところがあります。大事なことは、知識とともに心を育てることだと思います。マンデラ氏は、愛を教えることだと言っています。私は、他を思いやる心を教えることではないかと思います。思いやる心を学ぶ時、憎悪や偏見、差別を学ぶ時よりずっと心が温かくなるにちがいありません。

自分が誰かから思われている、優しくしてもらってうれしかったという体験、誰かに優しくしてあげて感謝されたという体験が人を思いやる心の原点です。教育の力は大きいです。家庭、学校、地域などあらゆる人や場所をとおして、社会総ががりて差別することの無意味さとともに、人を思いやる心の素晴らしさを教えていきたいものです。

チーム

で対応する(例)

不登校への初期対応

子どもの欠席が例えば3日以上続いた時、どのように対応すればよいのでしょうか。不登校への対応は、初期対応が大切です。一人で抱え込まず、チームでの対応を心がけましょう。

1 対人関係のトラブル

友だちとのトラブルが原因で、学校に来にくくなっている子どもがいます。どのようにすればよいのでしょうか？

チームとなって関わるメンバー→

- SC
- 養護教諭
- 生徒指導
- 学年主任

トラブルの内容を子どもが安心して話せるようにしましょう。

- 本人の許可なしに口外しないことを約束しましょう。
- 何を話しても怒らないと約束し、子どもの心情に寄り添いましょう。
- 負担にならないような頻度、方法で家庭訪問をしましょう。例えば、1回につき10分程度にするなどがよい方法です。回数を重ねることで信頼関係を結びましょう。

子どもの苦しみを理解し、本人の気持ちに寄り添いましょう。

- 子どもが話をしてくれたら、「よく話してくれたね。」とねぎらいましょう。「この先生なら守ってくれる。」という安心感を与えることが肝心です。
- 「あなたにも悪いところがある。」「気にしないでいい。」「もっと強くなりなさい。」等の言葉は絶対に言わないようにしましょう。
- 話に多少つじつまが合わないことがあっても、まずは受け止めることが大切です。尋問にならないようにしましょう。

学級全体の問題につながっていく可能性を考えて対応しましょう。

- 学級全体の問題へと発展する可能性も考えておきましょう。
- Q-Uなどを用いて、学級の現状を把握しましょう。

話し合いの場を持ちましょう。

- トラブルの相手と担任が話し合う場を持ちましょう。
- 加害者と決めつけるのではなく、慎重に話を聞くようにしましょう。
- 可能であればお互いの話し合いの場を持ちましょう。



2 学習面のつまづき

学習面のつまづきがあり、そのことが原因で登校をしづっている子どもがいます。どのようにすればよいのでしょうか？

チームとなって関わるメンバー→

- SC
- 学年主任

どのような支援が必要か見定めましょう。

- 学習面のどこにつまづきがあるのかを観察しましょう。特に、計算問題や漢字の書き取りなどを苦手に行っていることがあります。
- 特定の科目を避けているようなことがないかを見てください。「算数・数学の時間は寝ている」「体育は見学ばかり」などのサインを見逃さないようにしましょう。
- 苦手な部分を教師が手助けしましょう。放課後などに個人的に対応したり、支援の教員を配置したりするなど、組織的な支援を考えましょう。

3 対人関係のつまづき

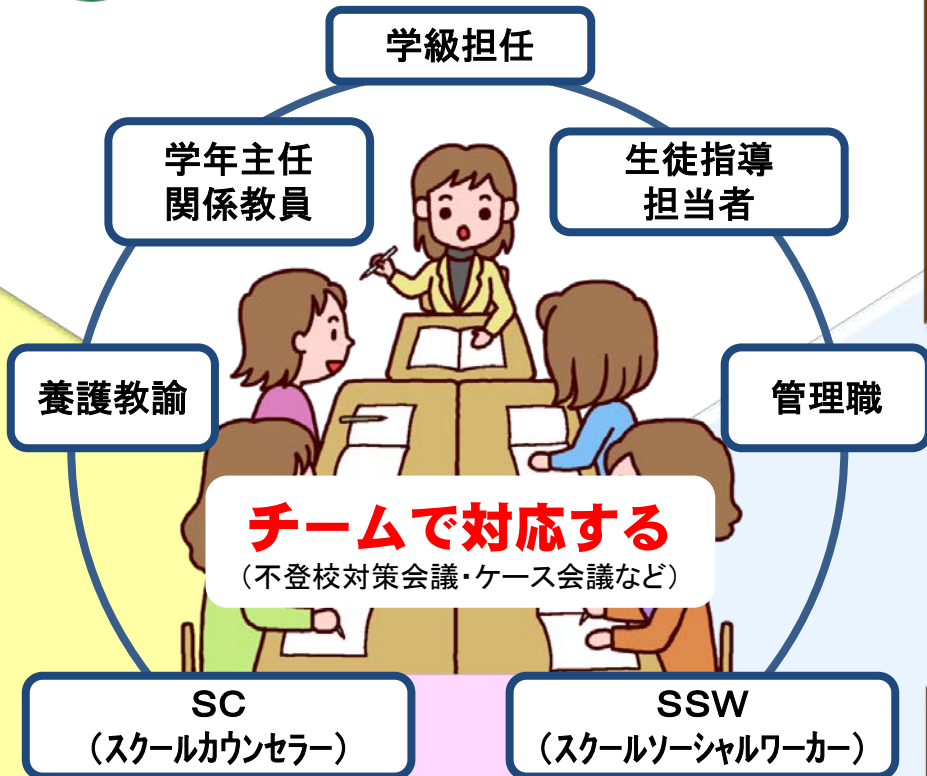
大きなトラブルはないのですが、友だちとの人間関係を築きにくく、孤立しがちになる子どもがいます。そのことが原因で学校に来にくくなっていますが、どのようにすればよいのでしょうか？

チームとなって関わるメンバー→

- SC
- 養護教諭

一人一人に応じた丁寧な対応をしましょう。

- まずは安定した大人との関係づくりから始めましょう。複数の教師が対応にあたり、安定した人間関係の中で子どもの持っている課題を見つけていきましょう。
- 人間関係に傷つき、自信をうしなっている可能性があります。子どもを多面的に観察し、子どもの持っているよさを見つけ、「すごいね。」と言葉かけをしながらかわることで、自尊心を高めていきましょう。
- 普段から学級での人間関係づくりを心がけましょう。グループ・エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れて、子どもと子ども、教師と子どもの人間関係づくりを進めていきましょう。
- 別室や保健室など、安心できる居場所をつくるようにしましょう。



4 保護者対応

保護者と会って話をすることができません。どのようにすればよいのでしょうか？

チームとなって関わるメンバー→

- 管理職
- SSW
- 学年主任
- 生徒指導

相談することができない保護者の気持ちを大切に受け止めましょう。

- 担任などに相談しにくい保護者の心情に配慮して対応しましょう。
- 保護者の時間に余裕があるときに連絡するなど、保護者の負担を減らし、話ができる機会を持つことができるようにしましょう。

電話や手紙、家庭訪問などで保護者と連絡を取っていきましょう。

- 子どもにも保護者にも連絡が取れないが続くときは、虐待の可能性も考えましょう。
- 管理職と相談の上、関係機関と連携しましょう。

SCやSSW、総合教育センターの教育相談等を紹介しましょう。

- 必要であるなら、保護者にSCやSSW、教育相談機関などを紹介しながら、確実に支援が受けられるようにしましょう。



第2回 **新**規採用教員等訪問指導から

新規採用教員の指導力及び実践力の向上をめざし、第2回訪問指導を10月～11月にかけて実施しました。

若手教員の先生方、授業力向上（カリキュラム）支援センターコンサルタントからのメッセージを参考に、**授業力の向上を図りましょう。**

山田コンサルタントより

1学期に出会った先生方が、専門職としての教師の道を力強く歩んでおられる姿にふれ、頼もしく感じました。**本物の授業**ができる教師に育っていかれることを期待しております。

- 授業に向けての**教材研究**は十分ですか？
 - ・自らの発問に自ら答えられますか？
 - ・その答えは何通りもありますか？
 - ・その答えそれぞれに言いそうな子どもの顔が浮かびますか？
- 授業の流れは**子どもの活動**が保証されていますか？
 - ・教師の話より子どもの発表や活動に多くの時間が設定されていますか？
 - ・ねらいに直結するところは子ども自身が説明できますか？
 - ・教師の一つの発問に多くの子どもたちの手があがりますか？
- 授業内容は**板書**を見ればわかりますか？
 - ・授業の流れが子どもの**思考（意見）**とともに書いてありますか？
 - ・教室内のどの位置から見てもわかりやすくなっていますか？
 - ・どの教科の**どんな力**をつけたいか一目瞭然ですか？

川勝コンサルタントより

授業改善に向けて

- 聞いている生徒の立場に立って、話の「**間**」の**取り方**を研究しましょう。
 - ・だらだらと趣旨のわからない説明を早口でしていませんか。
 - ・「聴く」、「書く」、「考える」を同時にさせたり、先の指示の学習中に後追いで、次の指示を重ねて出したりしていませんか。
- 発問、指名については**机間指導中の観察が勝負**と自覚しましょう。
 - ・生徒のつぶやき、ノートの記事、発表やテストの誤答などを踏まえて発問の内容・方法、指名生徒や学習班を決定していますか。
- 「ふり返り」を**深い学びに誘導**しましょう。
 - ・時間の都合で授業者がうまくまとめてしまっていませんか。時間が無いのは、授業者の都合です。
 - ・生徒の思考時間の確保をしていますか。
- 単元の繋がり**を研究しましょう。
 - ・校種間・学年間の学習事項の繋がりをしっかり調べ、無駄のない授業を組み立てていますか。
 - ・初習の内容、今後発展的な学習をする事項について、つながりに配慮して説明していますか。
- 他の先生の**授業を参観**しましょう。
 - ・同じ教科を違ったクラスで、同じクラスで違った教科を参観させてもらいましたか。先輩はもちろん、若手の先生の授業からも学ぶことは沢山あります。参観者の気持ち次第です。

発行 伊丹市立総合教育センター

月～金 9:00～21:00 所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番 TEL 072-780-2480 FAX 072-780-2482
土 9:00～17:00

休館日 日曜・祝日、年末・年始 総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>